

## レコード調整周辺作業の軽減化

金沢大学附属図書館 守本 瞬

### はじめに

書誌レコードの品質を保持するためのレコード調整は、各参加組織で日々行なわれている。NACSIS-CAT への参加組織が増えていることに加え、各館での遡及作業も進んでいるため、新規レコード作成数が減ることはない。そして、それに伴うレコード調整も減ることはないであろう<sup>1</sup>。しかし、その作業は大変煩雑である。日常業務の中に突然飛び込んでくるレコード調整について、書誌データに直接関わること以外の作業で煩わしさを感じている方は多いのではないだろうか。

この点について、今回のデータベース研修に参加しておられる方々にアンケート（資料 1）を取ってみた。

これに、私の経験や同僚の意見を加えて、レコード調整の書誌データに関すること以外で煩わしく思っている事柄をまとめると以下ようになった。

- ・ FAX の通信文を作成することが面倒。また、作成館だった場合、発見館と所蔵館にそれぞれの文面を作らねばならない。
- ・ 多くの所蔵館に対して連絡先を調べるのが手間。
- ・ 現物が研究室にある時、先生がつかまらない、本が探しにくい。
- ・ 相手館から返事が来ない。
- ・ 問い合わせの間、目録処理が中断されてしまう。

また、現在金沢大学で行われているレコード調整作業の主な流れと比較してみても、作業行程の大きな違いはなかった。まとめると以下ようになる

#### レコード調整作業の流れ

- a . 発見館 FAX でレコード修正について作成館に問い合わせ  
(通信文の作成と送信)
- b . 作成館 現物を持ってきて修正事項の確認  
(現物の取り寄せ)
- c . 作成館 NC 書誌レコードの修正
- d . 作成館 所蔵館の調査  
(FAX 番号の調査)

e . 作成館 所蔵館へレコード修正依頼 or 学術情報センターへ所蔵館連絡の依頼  
(FAX の作成と送信)

これらを見ると、FAX 関係の作業が多いことがわかる。また、現物の取り寄せも作業量の増加の一因となっているように思われる。

以上のようなレコード調整に伴う作業の手間を少しでも軽減することができれば、煩わしさが減るのではないだろうか。

現在、コンピュータをめぐる技術の進歩によって、NACSIS-CAT 開発時には不可能と  
思っていたことや思いもよらなかったことが可能になってきた。また、各参加館でも比較  
的容易に高性能のコンピュータを導入できる環境になってきている。これらの技術を  
NACSIS-CAT や各参加館のクライアントシステムに反映させることで、より「楽に」レ  
コード調整をできないか考えるのが本稿の目的である。

なお、レコード調整は主に図書館のデータに関するものであるので、本稿での書誌レコー  
ドとは、図書データのことを指す。

- 1 . 金沢大学中央館でのレコード調整数について調査すると、下記ようになる。受付数には、所蔵館  
として受付したもの(「書誌を修正したのでローカルと整合してください」という連絡)も含んでい  
る。これを見ると、1日あたり1~2件のレコード調整を行なっていることになる。
- 2 年度分だけのデータなので、処理数の増減については不明である。

金沢大学附属図書館中央館のレコード調整処理数

	問い合わせ数	受付数	計	月平均
1998 年度	69	569	638	53.17
1999 年度(4 - 9月)	46	161	207	34.50

### 連絡作業の軽減化

この章では、「FAX の通信文を作成すること」「所蔵館の連絡先を調べること」など、発見館から作成館へ、作成館から所蔵館への連絡作業の軽減化について考える。

連絡の際にもっとも面倒な作業が FAX の作成であろう。FAX には、作成館の正式名称  
(宛名のため) FAX 番号、書誌データ、問い合わせ内容の説明が必要になる。たとえ FAX  
の様式を作成しておいたとしても、書誌データから必要個所を切り貼りし、相手の FAX  
番号を調べねばならない。

そこで提案したいのが、電子メールの利用をもっと拡大することである。

コンピュータ通信の発達によって、電子メールは簡単に利用できるものになってきた。  
NACSIS-CAT に参加する組織は、まず間違いなく電子メールを使用できる環境にあるはずである。電子メールを使用すれば、日頃図書館員が利用している端末を使って、他館とのやり取りが可能になる。また、FAX は送り手側と受け手側で 2 枚の紙を使用してしま

うのに対して、電子メールは紙を使用しないので、ペーパーレス化を促進できる通信手段であるともいえよう。(結局は記録のために印刷してしまうことが多いのだが)

NACSIS-CAT には、参加組織ファイル (MEMBER ファイル) の中にメールアドレス用の EMAIL フィールドが存在する。しかし、このフィールドを活用している参加組織は少ないのではないだろうか。参加組織情報を覗いてみても、このフィールドにアドレスを記入している組織はまだ少ない。このフィールドが運用開始された平成 6 年頃には、電子メールがそれほど普及していなかったせいもあるのだろうが、現在の普及率はもっと高いはずだ。

今後、新 CAT 対応のクライアントシステムが増えていくので、各クライアントシステムでこのフィールドを利用できるコンポーネントを開発していけばよい<sup>2</sup>。

#### ア．発見館から作成館へ連絡

所蔵をつける際に、書誌詳細データに疑問を感じると書誌調整が行なわれる。発見館が作成館に問い合わせをするコンポーネントは以下のような感じになるであろう。

- ・書誌詳細表示画面から、作成館連絡コマンド (あるいはボタン、以下同じ) を選択。
- ・クライアントは電子メールアプリケーションを開き、作成館連絡用フォームの編集画面を出す。フォームにはその時開いていた書誌データがすでに取り込まれ、通信文の先頭には相手館の正式名称 (書誌データの CRTFA から参加組織ファイルを見て ORGNW を取り込む) が埋め込まれている。
- ・必要事項を修正・追加して通信文を作成する。
- ・送信コマンドを選択すると、作成館の EMAIL フィールドを調べ、相手先メールアドレスに対して送信する。

問い合わせに際してこちらの情報源のコピーを送付したい場合は、画像を取り込んで添付ファイル方式で送付すればよい。画像取り込みについては 章で述べる。

#### イ．作成館から所蔵館への連絡

作成館が何らかの理由によって書誌レコードを修正した場合、所蔵館へ連絡するという作業が生じる。これらは、所蔵館の数だけ連絡の必要がある。所蔵館が多数ある場合は学術情報センターに所蔵館連絡の依頼をすれば済むが、それでも最低 1 枚は FAX を作成しなければならない。

そこで、すべての所蔵館への連絡も電子メールで行なってしまうとよい。コマンド一つですべての所蔵館に連絡が行くようにすれば、各所蔵館のメールアドレスを調べずに済む。また、学術情報センターが各館へ連絡する手間も減り、ニュースレター等の編集作業に伴うタイムラグも解消される。

この場合のコンポーネントは以下のような感じになるであろう。

- ・書誌修正画面から、所蔵館連絡コマンドを選択。あるいは、書誌修正を行なって登録をすると、「所蔵館連絡をしますか」メッセージが出て選択できるようにしてもよい。

- ・クライアントは電子メールアプリケーションを開き、所蔵館連絡用フォームの編集画面を出す。フォームには修正された書誌データが取り込まれている。(可能ならば修正前データも取り込めるようにしておく。)
- ・必要事項を修正・追加して通信文を作成する。
- ・所蔵館送信コマンドを選択すると、所蔵館の EMAIL フィールドを調べ、送信する。

平成 8 年 11 月 21 日に北大で行われた新目録所在情報サービス説明会における配布資料 2.4.4. (<http://www.cat.op.nacsis.sc.jp/newcat/setumeikai>) にも「電子メールを新目録システムクライアントと連動させ、書誌調整を効率的に行なうシステム」の構築が可能であるとの表記がある。これを容易に実現させるためには、参加組織がもっとメールアドレスのデータを NACSIS-CAT に格納しておく必要がある。

メールを使用できる環境にない時はこれまで通り FAX を使用するしかない。

この場合も、FAX モデムを使用すれば送信に伴う手間を減らすことができる。この場合は、参加組織ファイルの CATFAX フィールドから相手館の FAX 番号を取り出して利用すればよい。

しかし、EMAIL フィールドも CATFAX フィールドも現状のままでは使用しにくい。EMAIL フィールドは目録専用とは言い切れず、組織を代表して受け付けるアドレスや ILL 用のアドレスが記入されているかもしれない。また CATFAX フィールドには、複数の FAX 番号(和書担当と洋書担当、G3 と G4 など)、番号記述法(123-456-7890 と 123(456)7890 など)の問題がある。これらのフィールドの記述法を統一すれば、各クライアントシステムでより簡単に利用できるようになる。

書誌ファイルの各フィールドに記述文法があるように、参加組織情報ファイルにも記述文法を設けてもよいのではないだろうか<sup>3</sup>。例えば、目録担当は "CAT:メールアドレス"、ILL 担当は "ILL:メールアドレス"、のような形式で入力すればよい。

2. 新 CAT では、各ファイルの情報を取得する際に、データベース内の 1 つの情報だけを取り出すことができない。(例えば、書誌ファイルの TRD フィールドだけを取って来ることはできない) 各ファイルには、一度に取得できるデータの種類 (Edit-type) があり、それぞれ 3 種類 (簡易表示用、詳細表示用、全データの取得用の 3 つ。詳細表示用は全データを取得するので、実際には 2 種類) しか設定されていない。そのため、参加組織ファイルの情報を取り出す際に、EMAIL フィールド以外のデータも取得してしまうことになる。しかし、メールの機能は頻繁に使用するというものでもないで、毎回すべてのフィールドを取得したとしてもサーバにとっては大きな負荷にはならないであろう。
3. ILL システムでは参加組織情報の郵便番号 (YNO)、住所 (ADDRS) を利用して送り状の印刷ができるシステムが開発できる。データの記述がある程度統一されているため、新たに記述文法を作る必要はないかもしれない。

## 書誌事項確認作業の軽減化

この章では、「現物を取ってくること」など、書誌事項の確認に伴う作業の軽減化について考える。

レコード調整を行なわねばならないデータが、なぜ作成されてしまうのだろうか。最大の要因は「書き写す」からではないか。人間はどんなに注意していても何かしらミスをしてしまうものであるから、この書き写し間違いによって、同定しにくい書誌レコードが作成されてしまう。レコード調整の中には、「書き写し間違い」なのか「書誌が異なるのか」を確かめるために問い合わせを行うこともしばしば発生する。

また、問い合わせをされた館は、現物を取ってくるという作業が必ず生じてしまう。

発見館が作成館の情報源を見ることができれば、これらの作業を軽減できるのではないだろうか。書き写し間違いはこの段階で修正できるし、異なる書誌かどうか情報源を見れば解決できるはずだ。

作成館以外の参加組織が情報源を確認する最も手軽な方法として、画像取り込みについて考えてみたい。

書誌ファイルに画像データフィールドを作成し、新規書誌作成のときに標題紙・奥付などの情報源を「画像データ」として取り込んでおく<sup>4</sup>。こうしておけば、作成館の現物資料がなくても情報源を確認できるようになる。疑問を持った館はこの画像データを見て、「明らかに転記を間違っている」「PTBLが抜けている」「版が違う」などの判断を行なうことができる。また、PTBLの追加などは、作成館と協議せずに「取り込まれた画像を情報源とした」修正をすれば済むことになる。レコード調整を行なうべきかどうかの判断が容易になるし、新規書誌を作成してしまうミスも防止できる。

将来、情報源の画像データが書誌データの中心要素になれば、目録担当者は「画像データ」の取り込みと、それを探し出すための「検索キー」を入力するだけでよくなるかもしれない。

しかし、画像データを利用するにはいくつかの解決すべき問題点がある。

画像データの取り込みは、これまでの書誌作成では行なっていなかった作業である。新たな作業の増加は、書誌作成作業の負担になってしまう。この点について考えてみる。

現在、画像を取り込むには、スキャナを利用する方法と、デジタルカメラを利用する方法がある。

画像の鮮明さを考えるとスキャナで取る方がよい。スキャナはコピーと同じ要領で画像を取り込むため、大きな手間にはならない。しかし、据え置き型の機器であるから、設置スペースの問題、使用できる端末数の問題が生じてしまう。本を上向きにしたままコピーが取れる機械が既に販売されており、その技術を利用すればさらに容易に画像の取り込みが可能である。

デジタルカメラは、コンパクトで移動も容易であるから取り扱いが楽である。その分安定性にかけるため、ブレ、ピンぼけに注意する必要がある。

画像データは文字データに比べてファイルサイズが大きい。そのため、これまでの文字のみのデータ量に比べて、かなり大きなディスク容量を必要とする。

そこで、画像データがどの程度の大きさになるのかを確かめるため、デジタルカメラとスキャナによる取り込みテストを行なってみた。(資料2、3。BA33229860の標題紙を撮影)

資料2はデジタルカメラによる画像データを印刷したものである。解像度は640×400ピクセル、ファイル形式はJPEG、ファイルの大きさ137KB、フラッシュは使用していない。紙をしっかりと押さえられなかったということもあるが、ピントがぼけてしまって小さな文字の判別ができない。タイトルは読めるが、責任表示、出版事項の確認は不可能である。もっと高性能のデジタルカメラでの撮影すればより鮮明になって判読可能になるが、おそらくファイルの大きさもMB単位になってしまうと思われる。書誌データとして取り込むのは、現時点では難しいといえよう。

資料3はカラスキャナによる画像データを印刷したものである。A4の大きさで取り込み、ファイル形式はJPEG、ファイルの大きさは32KBである。コピーと同じなので文字は鮮明で書誌事項も十分判別できる。ファイルサイズもスキャナ取り込みより小さい。現時点ですぐに利用できる方法といえよう。

しかし、1つの書誌データについて画像用に50KB使用すると考えたとき、書誌レコード500万件分<sup>5</sup>で画像データのサイズが約250GBになってしまう<sup>6</sup>。近年のハードディスク容量の増加と、データ圧縮技術の向上によって、将来的には使用に耐えうるディスク容量が確保できるようになるはずである。

画像データを共同で使用すると、表紙等についての著作権を侵害する恐れがある。

標題紙や奥付に著作権がかかるのか、世界的な資料収集に対して各国への対応はどうか、など著作権に関してクリアしなければならない問題は多い。

4. 情報源のうち「表紙」の画像を利用できれば、職員は現物のイメージを持って資料を探することができるようになる。さらにWebcatに表示できれば、利用者自身が現物のイメージで探すことができる。表紙の画像は、TRCが一部の書籍についてはデータとして取り込んでいるので、これを利用できれば能率が上がる。
5. 平成11年3月末現在での書誌レコード数は480万件強である。
6. ちなみに、BA33229860の書誌レコードをテキストファイルにダウンロードしたサイズは約1KB(1089バイト)である。資料4上はそれを印刷したものである。実際には、フィールド名などは格納されていないはずなので、これより小さいサイズになるはずである。資料4下はダウンロードデータから余分なものを削除し、データのみを切り出してみたものである。これ単独では647バイトであった。500万件の書誌レコードがあるとして、文字データだけで5GB弱になる。

## ．おわりに

以上、レコード調整の周辺作業についていくつか提案を試してみた。現状では、すぐに実現できるかどうか分からない事柄になってしまったのが残念である。

新 CAT に変わり、かなり自由なクライアントシステムの構築が可能になった。サーバ側でできることは限られているものの、クライアントシステム側に様々なアプリケーションを用意することで、取得した情報を加工・利用することができるようになっている。今回はレコード調整を例に挙げているが、他の業務でも作業効率を上げていくことは可能であろう。

今後の各参加組織の図書館システムが、NACSIS-CAT に格納してあるデータを取得してきて利用するというシステムに移行していくのは間違いない。今後も NACSIS-CAT データベースは改定が加えられていくであろうが、クライアントシステムで作業を効率的にこなせるようなデータの格納を視野に入れておかなければならない。

# 資料 1

## レコード調整に関するアンケート

書誌内容に関すること以外の実務作業についてお尋ねします。

### 1. 「問い合わせをする」立場の場合（発見館）

ア. どのような作業をしていますか。

例：書誌データをテキストファイルに落とす      F A X用紙を作成する      作成館の  
F A X番号を調べてF A Xする。

イ. 「問い合わせをする」のが面倒だと思ったことはありますか。

はい      いいえ

ウ. 「はい」の場合、何が面倒だと思いましたか。

### 2. 「問い合わせをされる」立場の場合（作成館）

ア. どのような作業をしていますか。

例：F A Xを受ける      現物の所蔵場所を調べて取ってくる      書誌を修正する  
F A X用紙を作成する      所蔵館のF A X番号を調べてF A Xする。

イ. 「問い合わせをされる」のが面倒だと思ったことはありますか。

はい      いいえ

ウ. 「はい」の場合、何が面倒だと思いましたか。

例：現物を取りに行くのがおっくう。F A Xを作るのがじゃまください。



# Proceedings of the Fifth European Conference on Computer Supported Cooperative Work

Edited by

**John A. Hughes**  
*Lancaster University, U.K.*

**Wolfgang Prinz**  
*OND-FIT/CSCW, Germany*

**Tom Rodden**  
*Lancaster University, U.K.*

and

**Ejvind Schmidt**  
*Riso National Laboratory, Denmark*

Cover Design by Roger Bostwick



**KLUWER ACADEMIC PUBLISHERS**

*Dordrecht / Boston / London*

# Proceedings of the Fifth European Conference on Computer Supported Cooperative Work

Edited by

John A. Hughes  
*Lancaster University, U.K.*

Wolfgang Prinz  
*GMD-FIT.CSCW, Germany*

Tom Rodden  
*Lancaster University, U.K.*

and

Kjeld Schmidt  
*Risoe National Laboratory, Denmark*

Cover Design by Roger Bonninck



**KLUWER ACADEMIC PUBLISHERS**  
DORDRECHT / BOSTON / LONDON

図書書誌詳細情報

1999年11月1日

取得元 : 学術情報センター図書目録

書誌ID : BA33229860

TRD : Proceedings of the Fifth European Conference on Computer Supported Cooperative Work / edited by John A. Hughes ... [et al.]

PHYS : PHYP xiii, 377 p., PHYSI ill, PHYSS 25 cm, PHYSA

PUB : PUBP Dordrecht, PUBL Kluwer Academic Publishers, YEAR c1997

VOLG : VOL , ISBN 0792346386, PRICE , XISBN

CLS : CLSK DC20, CLSD 004.16

NOTE : Includes bibliographies and index

SH : SHT LCSH, SHD Work groups -- Data processing -- Congresses, SHK K, SHR

AL : AID DA0716234X, AFLG \*, AHDNG European Conference on Computer-Supported Cooperative Work, AHDNGR

: AID , AFLG , AHDNG Hughes, John A., AHDNGR

VT : VTK CV, VTD ECSCW '97 : proceedings of the Fifth European Conference on Computer Supported Cooperative Work, VTR

GMD : , SMD : , YEAR1 : 1997, YEAR2 :

CNTRY : ne, TTLL : eng, TXTL : eng, ORGL :

CRTDT : 19971201, CRTFA : FA014009, RNWDT : 19980313, RNWFA : FA002495

"BA33229860",

"Proceedings of the Fifth European Conference on Computer Supported Cooperative Work / edited by John A. Hughes ... [et al.]",

"xiii, 377 p., ill, 25 cm,",

"Dordrecht, Kluwer Academic Publishers, c1997",

", 0792346386,,",

"DC20, 004.16",

"Includes bibliographies and index",

"LCSH, Work groups -- Data processing -- Congresses, K,",

"DA0716234X, \*, European Conference on Computer-Supported Cooperative Work,",

",,Hughes, John A.,",

"CV, ECSCW '97 : proceedings of the Fifth European Conference on Computer Supported Cooperative Work,",

"","", "1997", "",

"ne", "eng", "eng", "",

"19971201", "FA014009", "19980313", "FA002495"